

教育課程特例校（英語科）にかかわって **R5 児童アンケートより**

全校児童を対象に、以下のアンケートを行いました。1, 2年生は不定期で、3, 4年は週1時間、5, 6年生は週2時間の英語の授業を行っています。ALTの授業は、全学年にバランスよく割り振っています。

【1, 2年】 %

英語学習をふりかえてアンケートに答えましょう		とても好き	どちらかといえば	あまり	まったく
1	英語の授業は「楽しい」・「好き」です	64	27	7	2
2	英語を「話したり」、仲間と「交流したり」することは楽しいです	66	24	9	1
3	ALTの先生と、もっと英語で交流をしたいです	61	31	6	2
4	英語の勉強をもっとしたいです	71	22	6	1

【3～6年】 %

英語学習をふりかえてアンケートに答えましょう		とても好き	どちらかといえば	あまり	まったく
1	英語の授業は「楽しい」・「好き」です	41	42	16	1
2	英語を「話したり」、仲間と「交流したり」することは楽しいです	43	46	9	2
3	英語を「聞いたり」、英語の文を「読んだり」することが楽しいです	43	36	18	3
4	英語を「書いたり」、自分のことを英語で書いたりすることは楽しいです	39	36	21	4
5	ALTの先生と、もっと英語で交流をしたいです	50	37	12	1
6	英語の勉強をもっとしたいです	53	35	10	2

「こんな活動があったらたのしくなる」を教えてください

○カードゲーム・ビンゴ・歌・クイズ ○友達との英語を通しての交流・外国の方との交流

- 全校的に、英語を好意的にとらえている児童が多く、英語の授業についても、「好き」「楽しい」と答えている児童が低学年では、90%以上の児童がいる。3年生以上も、内容的に徐々に難しくなるものの、83%の児童が「好き」「楽しい」と答えている。
- 英語の技能のうち、実際に自分が英語を使って、話したり、仲間と交流をしたりする活動を好む傾向にある。それは、高学年の「こんな活動あったら楽しくなる」という記述にも大変多く見られた。
- ◇1, 2年と3年以上で大きく、数値的に異なる内容は、「書く」活動である。学年が上がることにより苦手感が増す。
 - 交流する活動を行った上で、自分がその活動の中で使用した表現や単語を書くなど、楽しい活動等と、結びつけることで、書くことへの抵抗感や苦手が軽減させられると思われる。今後、授業の活動内容の工夫や、流れの仕組み方に工夫を取り入れる。
- ◇ALT（外国語を母国語とする英語助手教員）との学習は楽しく行えている。ALT と会話をするにも臆することなく、自分から話しかける児童の姿も多い。記述式アンケートにも、外国の人たちと交流したいという要望もある
 - 今後インターネット等を利用して、違う文化の国の人々（同年代を含む）と交流の場を設けるような取り組みを検討する。
 - 長期休暇を利用した、複数のALTと一緒に野外活動を行ったり、オンラインなどで対話をしたりする活動を紹介するなどして、思いを形につなげる。
- △2年生までで、英語について苦手感を抱いている児童が10%近く存在する。そんな中でも、ALTとの交流や英語の勉強をもっとしたいという数値は、7~8%にとどまっていることから、児童が抱いている「英語を使って楽しみたい」「~できるようにになりたい」という思いが伺われる。
 - まず、普段聞きなれない音への苦手意識、わからない（何を言っている？）が気になって、全体を拒否するなど、何に児童が苦手意識を抱いているのかといった実態をとらえ、それを少しでも取り除くような提示の仕方や習得方法の工夫を行っていく。
 - 3年生以上対象の質問項目2について、他の質問結果に比べ、あまり楽しくない、まったく楽しくないが低いことから、身近な内容を話題にしたり、自分が伝えたいことを題材にして、仲間と交流を通じて英語に触れたりすることに取り組んでいく。